

# 終了レポート

令和 元年 1 1月 2 5日

氏名：カン・ナムオイ（カンボジア）

研修機関：岡山外語学院

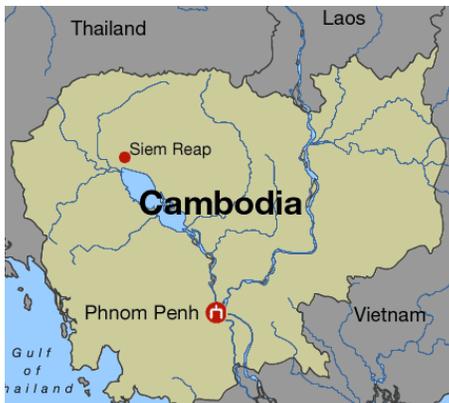
研修内容：日本語教師養成講座

## 自己紹介

カンボジア出身のカン・ナムオイと申します。カンボジアの西北にあるアンコールワットで知られるシェムリアップより参りました。

2001年、ハート・オブ・ゴールドの支援で、チェイという村にあるチェイ小学校に「日本語教室」が開かれ、無料で外国語の勉強ができるということでとてもいいチャンスだと思い、小学校6年生から、そこで日本語を学び始めました。

2015年からハート・オブ・ゴールドがシェムリアップで日本語講座を開くことになりました。日本語教師に興味があり、ハート・オブ・ゴールドに誘われたので、2016年から日本語教師として、仕事を始めました。日本語教師になれるように日本人の先生から日本語教師として必要な知識や技術を3年間学び、初級は教えられるようになりました。仕事内容は日本語講座の教師、そしてハート・オブ・ゴールド事務所内でも、労務管理の仕事をしています。



## 講習内容

1. 中級クラス受講（午前）
2. 日本語教師の養成講座（午後）

## 講習時の様子

### 1. 中級クラス受講（午前）

9月3日から研修が始まった。中級クラスの日本語の学習は9時から12時35分までである。教室で中国、ベトナム、ロシア、ミャンマーから来た人と勉強する。日本語能力試験 N1 を目指すクラスである。授業では日本語能力試験 N1 の語彙、文法、聴解、読解を基本に勉強する。N1 のレベルに入ると今まで見たことがない単語や文法や漢字などがたくさん出てきた。しかし、N3 や N2 のレベルでは日常会話で話し言葉でよく使われているが、N1 のレベルではさらにかたい表現で書き言葉が多い。レベルによって言葉は違うが、意味が同じである。日本語の勉強は勉強すればするほど知らない言葉がたくさん出てくる。今までした日本語の勉強で苦労した点は、意味が似ているような単語とその単語によって表す場面が異なっていることである。難しいが、一つの勉強の面白さだと思う。先生方は詳しくて丁寧に教えてくださった。今年の12月の日本語能力試験 N1 を目指して頑張っていきたい。



帰国する前に JLPTN1 の模擬試験も受けた。結果はやっと合格できるようになったので、とてもうれしかった。しかし、漢字の語彙の点数があまり良くなかったので、漢字の語彙の力がまだ

足りないと分かってきた。これから漢字の語彙の力を向上させたいと思っている。帰国して今年の12月の JLPTN1 の本番になるので、この3か月で授業で学んだことをいかして全力を尽くしたい。

クラスで勉強するだけでなく、日本の文化について体験したりクラスで社会見学に行ったりみんなで遠足に行ったりした。今まで体験したことがないことができて、本当にいい経験だった。



(浴衣を着る・ヨーヨー釣り)

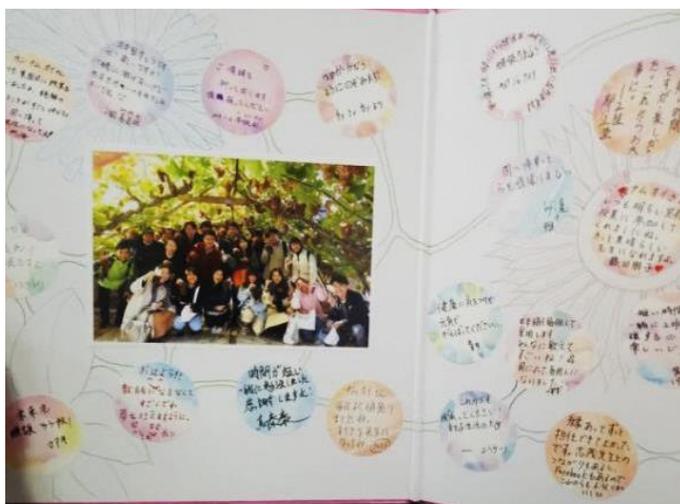


(ぶどう狩り)



(NHK 放送局の見学)

さらに日本語の勉強をしたいが、今月で日本語の授業が終了になるので、本当に残念である。みんなと勉強する期間は短かったが、帰国する前に2組のみんながメッセージと私の顔の絵を書いてくれてとてもうれしかった。帰国してもみんなのことを決して忘れることはないだろう。

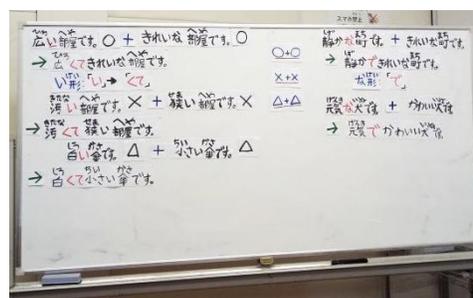


## 2. 日本語教師の養成講座（午後）

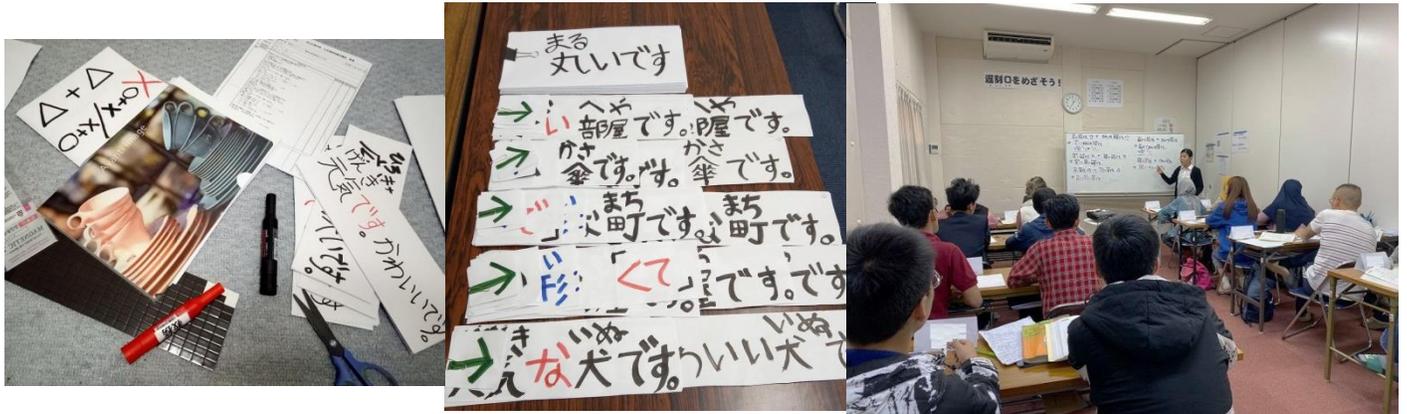
日本語教師の養成では2時10分から3時55分まで初級クラスに入って授業を見学して自分のペースで学びながら、養成講座の担当の先生からアドバイスを受けていた。先生方によって教え方や指導し方が違うが、授業の流れはどの先生方でも同じように進んでいる。学生は自然に流れが分かるようになって安心して勉強できると思う。分かりやすく丁寧で授業をする先生や問題の解説が上手な先生や文型に関連する冗談が上手な先生や声が大きい先生もいらっしゃる。



授業のために準備しなければならない教材や教材の作成し方や学生に対する語彙コントロールなどいろいろ参考になった。授業見学から学んだことは学生に対する日本語の語彙コントロールである。これからカンボジアの日本語学校で授業をする時クメール語を減らすことにしようと思っている。そして、初めて授業を見学した時、気になったのは手書きの文字カードのことだった。ぴたっとホワイトボードに貼っているのを見てホワイトボードにくっ付けられる紙があるんだと思ってしまった。裏側にマグネットを貼り付けられているのを知らなかった。



養成講座では 19 名の日本の方と講座を受け、養成実習するために教案作成や教材作成に入り忙しくなった。今までカンボジア人の学生にしか授業をしていなかったのが、外語学院の学生に外語学院のスタイルで授業を体験させていただいた。最初は緊張感があったが、授業している間に学生が理解してくれてほっとした。45 分の授業のために教案作成や教材作成の準備の大変さ分かるようになった。



また、帰国する前に養成実習に入った。養成講座を受けた日本の方と実習をした。順番で一人当たりは 20 分の授業をする。本当の外語人の学生ではないので、役割分担で学生役したり講師役したり見学者役をしたりした。その後、お互いにフィードバックをする。それまでカンボジア人の学生や外語学院の学生に授業をしていたが、実習では外国人の学生の役をする日本の方に授業をした。本当にいい経験だった。実習した後みなさんからフィードバックをいただき、ほめてくださったので、とてもうれしかった。3 か月で学んだことを参考にしてカンボジア人の日本語教師として国で活用したいと思っている。



授業見学の他、模擬試験の監督や採点、新入生への通訳の補助や資料翻訳などさせていただいた。また、日本の文化について深く学ぶことができた。お客さんのおもてなしの時のお茶とコーヒーの淹れ方や着物の着せ方も体験させていただいた。



## 県知事の表敬訪問

来日から1か月後、岡山県知事の表敬訪問させていただくという本当に貴重な機会を得た。県知事にお目にかかることができ、今回の研修の内容について話したり自己紹介したりした。



## ハート・オブ・ゴールドの活動

休日にはハート・オブ・ゴールドの活動にも参加させていただいた。おもちゃ王国マラソンのお手伝いやハート・オブ・ゴールドの20周年に参加するなどし、またハート・オブ・ゴールドの支援者にお話しさせていただく機会をいただいた。ハート・オブ・ゴールドの一員となってか

ら、支援する気持ちや、努力を続けることがいかに重要であるかを実感した。20年もカンボジアを応援してくださっているHGの多くの日本の方々と一緒に、いい仕事ができるよう努力していきたい。



## 休日の旅行

せっかく日本にいる機会をえたので日本の文化、社会での生き方や日本のすばらしさをさらに知りたいため、週末や休日に県外にも観光に行ってみた。京都と大阪と奈良へ観光に行った。この旅行で日本の豊かさや社会生活上の便利さについてよく理解できた。



## 研修によって学んだこと

研修に来てからしっかりと日本語の学習時間がとられるようになった。中級クラス受講で毎日日本語能力試験 N1 の対策をし、帰国する前の模擬試験 N1 に合格できた。前回より点数が上がってきたのでこの 3 か月で努力したかいがあったと感じた。

日本語教師の養成講座に関しては、岡山外語学院のスタイルでの指導や教材作成のやりかた、日本語教師として必要な言葉遣いや態度、そして指導するときの語彙コントロールなどを学ぶことができた。これからは授業でクメール語を減らして学生の日本語のレベルに合わせてたくさん日本語で授業をすることを目標としたい。今回の研修で教材作成の準備の大変さと積極的に利用することの便利さを実感した。

さらには、日本社会、文化、日本人の考え方や働き方など理解することができた。また、日本語学校の運営のし方やチームワークでの情報共有のし方、スタッフの役割分担や職場の関係などある程度理解できた。帰国してローカルスタッフと共有し、「MOMOTAROU 日本語学校」で活用したい。

## 帰国後の抱負

首都に比べて私が住んでいる町では日本語を使用する仕事はまだ少ない。ほとんどは日本語ガイド、日本の旅行会社や日本レストランなどの従業員などである。しかし、現在、日本企業では日本語能力の高いカンボジア人を求めている。日本で働けるように日本語の勉強をする人が増えている。帰国して「MOMOTAROU 日本語学校」で日本語を教えて、地域の人々のために、役に立ちたい。カンボジア人としてカンボジア人に正しい日本語を教えたい。

また、翻訳や通訳など可能な限りの業務拡張を試み、将来日本語学校の自立に向けて進む中心となって活躍したい。そのため、自分の日本語能力を向上させなければならない。日本語能力試験 N1 の合格を目指して努力していきたい。

3 か月は本当にあっという間だった。研修で学んだことや体験したことを帰国して同僚や学生や家族や友達と共有するつもりである。今回の研修は私にとって貴重な経験だった。その機会をいただいたことに深く感謝したい。